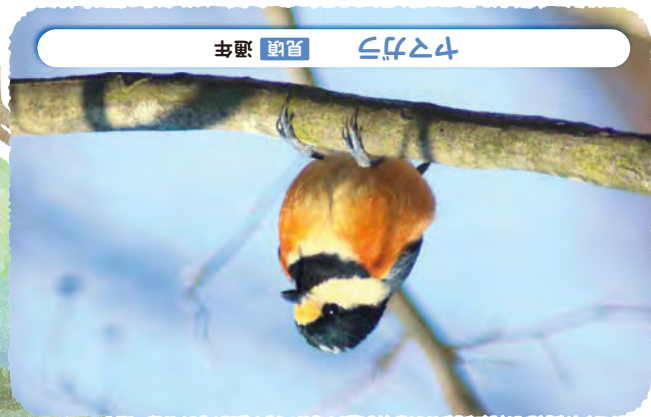




見頃 通年 ヤマザクラ



見頃 8月中旬～9月下旬 ヤマハギ



見頃 6月～8月/4月～10月 ネジバネ/ヘニシジミ



見頃 3月～4月/4月 エゾタンポポ/ツマキチヨウ



見頃 11月～3月 アカケラ



見頃 6月中旬～10月上旬 ナツアカネ



見頃 7月～8月 ヤマカンパウ



見頃 4月 アカネスミレ

冬に見られる動物

秋に見られる動植物

夏に見られる動植物

春に見られる動植物

うつのみや文化の森の自然環境

うつのみや文化の森は「里山」としての素晴らしい自然環境に恵まれ、四季折々に移り変わる豊かな自然を有しています。緑の中を散策しながら小鳥のさえずりや草花の観察を楽しんでみてはいかがでしょうか。

① 草の広場

森の中央に広がる草の広場では、さまざまな野草とそれ集まる蝶やバッタなどの昆虫、野鳥が見られます。

マイコアカネ



ヤマザクラ

② 雑木林

雑木林は森の半分を占めており、コナラ林が主体です。木々に囲まれた散策路は四季折々に姿を変え、里山の自然の変化を味わうことができます。

ヤマボウシ

カラスアゲハ(夏型)



③ 水 辺

森には2つの池(森の池・調整池)があります。周辺はコナラ林やシラカシ林、芝生に囲まれており、水辺に集まる野鳥や昆虫を観察することができます。



ツグミ

④ やつだ 谷津田 ※雑木林の北に広がる湿田

谷津田とは谷地にある湿田のこと。周遊コースから眺めることができます。森に隣接する谷津田は雑木林、畑、小川(水路)と共にのどかな田園風景を形作り、豊かな生態系を備えています。



カラスアゲハ(春型)

公園利用案内

..... 次のことは禁止されています。.....

- 自動車・オートバイ・車輪の付いた遊具の乗入れ (園内では自転車を おして通行してください。)
- 犬の放し飼い・フンの放置 (動物はリード等でつなぎ、フンは飼い主が持ち帰ってください。)
- 池に入ること 釣り、放流
- 騒音を発すること (大音量での楽器の演奏含む)
- 運動用具の使用、持ち込み
- ゴミのポイ捨て
- 花火など火気の使用 敷地内での喫煙 (バーベキューなども含む)
- ドローンの使用 (ラジコン含む)
- 動物・植物を傷つけたり、捕獲・採取すること (土壌も含む)
- 公園施設の破壊 危険物の持ち込み (危険行為)

..... 次のことは許可が必要です。.....

- イベント・物品販売など
- 営業用としての写真・映画撮影など
- 募金・アンケート 勧誘など

その他、周囲の迷惑になることはやめましょう。

うつのみや文化の森

駐車場利用時間：午前6時～午後10時
 駐車台数：一般駐車場 …… 200台
 大型車専用駐車場 …… 10台
 身障者・高齢者専用駐車場 …… 25台
 入園料：無料 休園日：年中無休

宇都宮美術館

開館時間：午前9時30分～午後5時
 (入館は午後4時30分まで)
 休館日：毎週月曜日^{※1}・祝日の翌日^{※2}
 その他メンテナンス期間・年末年始
^{※1} ただし祝日の場合は開館し、翌日休館
^{※2} ただし土曜、日曜、祝日の場合は開館



文化の森を歩いてみよう！

— 四季折々に移り変わる豊かな自然と
アートを感じながら —



ゲンジボタル
森の南側を流れる川や水路にすんでおり、6月から7月にかけて見ることができます。この貴重な水辺をみんなで大切に守っていきましょう。

調整池
大雨のときに下流で洪水が起きないよう、一時的に雨水をためる池です。この水は周辺地域の農業用水としても利用されています。土と玉石を使って造られており、植物や生物がすみやすいように工夫されています。この池は深いので、柵の中に入らないでください。

自然観察路

モデルコース

美術館からスタートして周る自然観察路
*歩きやすい靴、服装で。安全に注意しましょう。

森の池コース(約600m/所要時間 約20分)

【美術館 → 《ハートを抱く片翼の天使》 → 森の池 → 駐車場】

雑木林コース(約1.1km/所要時間 約30分)

【美術館 → 雑木林 → 調整池 → 森の池 → 駐車場】

里山コース(約1.2km/所要時間 約40分)

【美術館 → 雑木林 → 調整池 → 駐車場】

Photo Spot

自然や野外彫刻を素材に写真を撮ってみましょう！

水飲み場

*公園の団体利用につきましては、事前にお申し込みください。詳細は美術館までお問い合わせください。
*彫刻は「作品」です。大切にしましょう。



クレス・オルデンバーグ
《中身に支えられたチューブ》
制作年/1985年 寸法/高さ 457 × 横幅 366 × 奥行 290cm
材質/ブロンズ、鉄、ポリウレタンエナメル塗装
オルデンバーグの作品は、日常感覚を揺るがすユーモアに溢れています。ここではチューブが巨大化され、柔らかいはずの中身が本体を支えるという、現実では起こり得ない状態が作り出されています。遠くから眺めたり、しゃがんで近くから見上げたり、視点に応じてさまざまな表情を見せてくれる作品です。
※どこかにオルデンバーグのサインが入っています。見つけてみよう！
ヒント：イニシャル



サンドロ・キア
《ハートを抱く片翼の天使》
制作年/1996年
寸法/高さ 200 × 横幅 60 × 奥行 53cm
材質/ブロンズ
片翼の天使がハートを抱き、天を見上げています。引っかけたような跡や凹凸が目立ちますが、背面には荒々しいタッチの中にもしなやかな体のラインが表現されています。ほぼ毎日、自身のアトリエに行くという熱心な芸術家のキアは、天使をモチーフにした作品を多く制作しています。この天使の広い肩幅やたくましい胸筋には、キア作品らしい英雄的な男性表現が残っています。



バリー・フラナガン
《ホスピタリティー(歓迎)》
制作年/1990年 寸法/高さ 300 × 横幅 465 × 奥行 168cm 材質/ブロンズ
この野うさぎは4本足で駆け回るいかにも動物らしい姿をしています。体毛のない前脚の付け根から腰にかけてのカーブは人間の背骨のようにも見えます。フラナガンは野うさぎを題材に人間の行動を表現することで、伝統にしばられず人間のすべての行動を作品にできる自由を手に入れたと言われています。野うさぎの軽快な鼻うた、そして疾走を、豊かな自然の中で体験してみましょう。